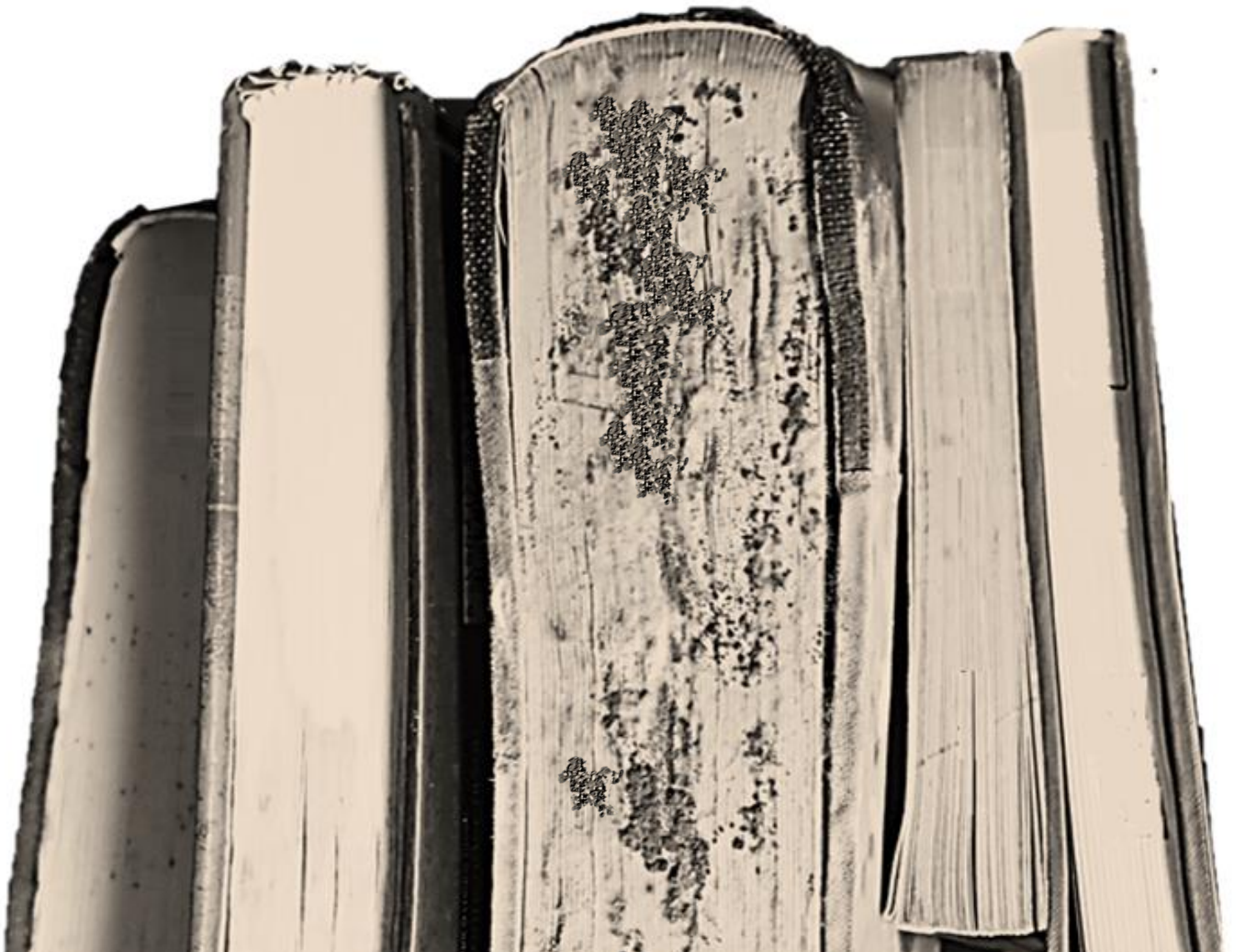


第9回 資料と保存展

発見！カビの世界



『発見！カビの世界』

展示期間

2019年12月5日（木）～ 12月25日（水）

10：00～18：30

展示場所

11号館1階 図書館内展示コーナー

品川学術情報課

発見！カビの世界

資料保存がわかる7の言葉 ～カビ編～

1.カビ

菌類に分類される生物。キノコや酵母と同様に真菌類に属する。カビという名称は生物学上の名称ではなく、菌糸がからみ合っただけの集合体（コロニー）を示す総称でもある。現在は約97,000種が確認されているが、菌類全体では推定150万種いるとも言われている。

2.真菌類

カビ、キノコ、酵母の総称。特徴として、真核生物であり、従属栄養性、菌糸構造（酵母は例外）などがある。

3.キノコ

菌糸から構成され、胞子をつくる器官である子実体が傘状の形状をしているものをキノコと呼ぶ。

4.酵母

菌類の一種。糖質をアルコールと二酸化炭素にかえる発酵機能を有する種が多く、酒、醤油、パンの製造など、我々の食と密接に結びついている菌である。

5.菌類

植物界と動物界と並ぶ菌界を構成する生物群。カビやキノコ、酵母が含まれる真核菌類と細菌が含まれる原核菌類で構成されている。地球上のあらゆる場所で、それぞれに適応して生息している。

6.微生物

顕微鏡的微小生物を総称して微生物という。厳密に微生物を定義する場合は非常に難しい問題があるが、肉眼では捉えることができない生物を指す言葉である。そのため、虫や細菌、カビ、キノコ、酵母が該当する。

7.ウイルス

病原体。生物と無生物の中間形とされる。ウイルス単体では増殖することができず、宿主の細胞に入るこむことが必要不可欠である。細胞内に寄生するため宿主に様々な影響を与える。